

---

# 真奈さんの夏休み

栗山ふにねこ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真奈さんの夏休み

### 【Nコード】

N7593N

### 【作者名】

栗山ぷにねこ

### 【あらすじ】

2010年8月14日のブーケット8にて、無料頒布させていた  
だいたものです（＾ー＾）

サークルでメインにやっている小説「都留たんっ！」の番外編（＾

＾

いつものように家で寝ていると、なんとそらたろゝさんが家に訪ねてきた！

さらにデートにまで誘われて……。

## 登場人物紹介

> i 1 1 5 3 6 — 1 6 3 7 <

遊大真奈太郎（35）  
ゆうだいまなたろう

この物語の主人公。若星町<sup>わかほしちょう</sup>に住んでおり、商店街にある「BIG BANG」というおもちゃ屋に勤めている。食べる事と寝る事しか興味が無く、とにかくずんぐりしている。

> i 1 1 5 3 8 — 1 6 3 7 <

黒巻宙太郎（40）  
くろまきぞうたろう

「BIG BANG」の店長。昔、真奈太郎は彼の事が好きだった。とにかくエロく、男の店員ばかり雇ってはケツを触りまくっている。丸々と太った体型。

> i 1 1 5 3 7 — 1 6 3 7 <

光野原葉亜人（35）  
ひかりのはらはあに

真奈太郎の小学生時代からの幼なじみで、小柄でぼっちゃりしている。「他の人とは違うんだぞ！」という事を見せつける為に、髪は黄色とオレンジのグラデーションにしている。とにかくハイテンションで、楽しい事や面白い事が大好き。普段は幼なじみの朝林清雄<sup>あさはやしきよお</sup>と「きよおはあと」というお笑いコンビを組みつつ、商店街にある「GAME HUNTER」というゲームセンターでバイトしている。

## 真奈さんの夏休み

あっちい……。

セミツるせえ……。

あゝっ、もう！ 寝苦しい！

これだから夏は嫌いなんだよ！

扇風機でもつけるか。

リモコンに手を伸ばして、扇風機をつけた。

首振りになってるのを止める。

休みの日はやっぱり寝るに限る。

幼なじみの都留男つるおと葉亜人はあにが来ることもあるけど、それはそれでいい。

どうせ来ても来なくても、寝るだけだし。

呼び鈴が鳴った。

ん？ 噂をすれば影か？

起き上がって、尻搔きながらドア開けた。

「やあ」

えっ？！

そこにいたのは、勤め先のおもちゃ屋「BIG BANG」の  
店長、黒巻宙太郎くろまきそらたろうさんだった。

いつも通り、口の周りにたつぷり髭を蓄えてニヤニヤしながら  
立ってる。

な、な、なんでこの人が？！

「どうしたんだ？ 顔が真っ赤だぞ」

「いや、あの、その」

「いきなり俺が来て驚いてるのか？」

「そ………そうです」

そうに決まってる。

昔、好きだったって事がこの間バレたばかりだから尚更だ。

「今からもつと驚かせるような事、言っていいか？」

「な、何ですか？」

「俺とデートしないか？」

そ、そ、そ、宙太郎さんとデート？！

いきなり来て、デート？！

ど、どういう展開なんだ？

「か、からかってるんですか？」

「からかってなんかねえぞ。ただ単に店長と店員がお出かけしよう、  
つてだけだ」

「じゃあ何でデートって言うんですか？」

「最近はおんなの子同士が遊びに行くのもデートって言らしいじゃねえか。おっさん同士が遊びに行くのもデートって言ってもいいだろ？」

「そ、そうっすね」

大分違うような気がしたけど、とりあえずそう言っというた。

「どうせ家にいても寝るだけなんだろ？ そんなんじゃ不健康だぞ」

「……じゃあ、行きます」

家にいても寝苦しいだけだし、宙太郎さんと二人でどこか行くのもいいと思ったから、そう答えた。

宙太郎さんの事はもう諦めて、愛とか恋とかの目で見ずに、あくまでも仕事だけの関係っていう事にしようと思ったけど、やっぱり今でもちよつと意識してる所はあるみてえだ。

まあ最初に会ったのが高一の時、もう二十年近くもずっと付き合いがあるから当たり前っちゃあ当たり前だ。

いくら諦めるって決めてても、仕事場でほとんど毎日顔を合わせるから、やっぱり意識しちゃう。

都留男の奴に顔赤いの指摘された時もあった、まいった。

「よしっ、決まったな。とりあえず着替える。さすがに寝巻きのままじゃまずいだろ？」

「……そうっすね」

「安心しろ。着替えを見ようなんて言う魂胆はねえぞ」

冗談で言っただけだろうけど、そうは聞こえなかった。

宙太郎さんはよく職場で俺達の着替えを覗くんだ。

他の奴はギャグで受け流したりしてるけど、俺はそうはいかない。

顔がすんげえ真っ赤になって、頭も真っ白になって、もう訳分かんなくなる。

だから俺は、いつも見られてないかどうか心の中でビクビクしながら着替えてる。

たぶん、宙太郎さんもちょっと気付いてるんだろう。

今も「じゃっ、ゆっくり着替えてくれ」って言ってドア閉めてくれたし。

とりあえず、着替えるか。

押し入れを開けて、中に積んである服を出した。

着るもんなんて昔から凝った事ねえから、どれもこれも地味だ。ガキの頃、周りの奴が「好きな女の子とデートする時の勝負服」とか言ってるの聞きながら「バツカじゃねえの！」って思ってたけど、たった今その気持ちが分かった。

やっぱり好きな人と出かける時は、いいもん着てえよな。

悩んだ挙句、結局深い緑のＴシャツとグレーの長ズボンにした。

こんなかじゃ無難な方のはずだ。

「おまたせしました」

ドアを開けると、宙太郎さんがニヤニヤ顔のまま立ってた。

「お前、相変わらず地味だなあ」

やっぱり地味な方だったか。

そりゃあ、あんなから選んだんだからなあ。

「よしっ、街へ行こう」

「え？」

「もっといい服買つてやるよ」

「べ、べ、別にいいですよ」

「何言つてんだ。昔から好きだった男とデートする時ぐらい、おしやれにしてもいいだろ？」

「からかわないでくださいよ」

「いいから行くぞ」

宙太郎さんは俺の手を引っ張っていった。  
腕を掴まれた途端、胸がときどきした。

とれいん  
十麗印電車の若星町駅から電車で十五分ほど行った所にある居化戸駅で降り、街中をぶらぶらした。

俺達が住んでる町より都会で、派手な店がたくさん並んでる。

「ここにはよく来るんすか？」

「ああ、若い頃からよく来るぞ」  
辺りを見渡してみた。

人、人、人。

こんなところ、全然来た事ねえ。

元々若星町から出る事が無かったし、それどころか家からもほとんど出ねえ。

確かにこんな生活してばかりじゃあ不健康だな。

「着いたぞ」

宙太郎さんはどことなくおしゃれな感じの店を手で示した。

ショーウィンドウにかっこいい服を着たマネキンが並んでる。

「ここで、服買っんすか？」

「ああ。お前に似合うのも、きつとあるぞお」

「そうっすかね」

「もっと自信持てよ。とにかく入るぞ」

言われるがままに中に入った。

めったに来ないとこだからすげえ緊張する。

「どんな服にする？」

「別に、何でもいいっすよ」

「うーん、そうだなあ。普段でも着れるようにTシャツにしようか。」

都留男が来てるようなうんとかわいい奴」

つ、つ、都留男が着てるようなＴシャツを……俺が？

アルファベットとか動物とかがプリントされてるようなＴシャツを……俺が？

ちよつと恥ずかしいけど、宙太郎さんからのプレゼントだった  
ら着れそうな気がする。

「真奈、こんなのはとうだ？」

な、な、名前で呼んだ！

それだけなのに、何でこんなときどきするんだ？

そうこうしてるうちに、宙太郎さんがＴシャツを一枚持つてき  
た。

ピンク色でカエルがプリントされてるＴシャツだ。

首元に黄色のラインが入ってて、カエルの上にはオレンジで「  
FROG」って書いてある。

「変かな？」

「そ、そ、そんな事ないす。すごくいいすよ」

「俺が選ぶと何でもいいのか？」

うつつ、痛いところいてくるな。

「さっそく試着してみようか」

「ええっ！ 今っすか？」

「ああ、今だ」

そんなわけで、試着することになった。

試着室で、もう一度Ｔシャツを見てみた。

すごくかわいい。

確かに都留男や葉亜人だったら喜んで着そうだけど、俺が着て  
似合うのか？

そもそもそんな事、今まで考えたこともなかったな。

……宙太郎さんも色々考えて、今日連れだしてくれたんだろうな。  
仕事以外は寝たり食ったりしてばかりで、全然健康じゃなかつ  
たし。



その証拠に、こんなぶくぶく太っちゃったし。

銭湯で体重測ったら三ケタが出て、すげえびっくりした。

そっぴやBIG BANGで働こうって誘ったの、都留男だったな。

中学の時にあいつが出来たてのBIG BANGでバイトしだして、俺も来ないかって誘われた。

バイトは校則で禁止で、それ破って叱られるのが面倒だったから適当に「高校になってからな」って言うといた。

そしたらあいつ、本当に高校に進学してから誘ってきて、「高校生はバイトしてもいいんだぞ」とかにんまりしながら言いやがった。断る理由もねえし、ちようど金に困ってたから、まあやってみてもいいかっていう感じで店に行った。

そこで宙太郎さんと初めて会ったんだ。

少し濃いひげと、でっぷりと太った体が特徴的だった。

話してみると、結構いい人そうだった。

大学で商学を勉強しながら店をやってるらしく、すんげえ感心したのを覚えてる。

学校の寮で書いてきた履歴書を見せて、簡単な面接をした後すぐ採用されて、次の日から働く事になった。

宙太郎さんとはとにかくエロくて、すぐケツを触ってきた。

照れながら「やめてください」とか言うのと、ニヤニヤしながら「これは大人のコミュニケーションだ」って言いながらさらにいやらしく触ってきた。

ちんこや金玉触られた事も何度もある。

でも、いつも明るくて、ニコニコ（っていうかニヤニヤ）しててミスした時も怒らずに優しく注意してくれて、ぜってえネガティブな事は言わなかった。

それにおもちゃが何よりも大好きだった。

働けば働くほど、宙太郎さんの事が好きになっていった。

思い切って告白しようと思ったけど、宙太郎さんが休日は街で男

をナンパしまくってるらしいって噂を聞いた。

実際に、店でも色んな男のケツを触ってる。

勇気を出して、本人にその事を確認したら、あっさり認めた。あまりにもあっさり認められて、しばらくぽかんとした。

それから男として見るのはすっぱり諦めた……つもりだ。

でも、今日は宙太郎さんの方から誘ってくれた。

Tシャツも選んでくれた。

四十になって、若くなくなった宙太郎さんが今も男に声掛けまくってるのか知らねえけど、それでも俺の事をちゃんと考えてくれるんだ。

なんかすんげえ嬉しくなった。

宙太郎さんの為にも、このTシャツを大事に着よう。

「おつ、なかなか似合ってるじゃねえか」

試着室のカーテンを開けた途端、宙太郎さんは言ってくれた。

着た後に鏡を見て、ちよつとびっくりした。

こんな服着る事があるなんて、思いもしなかった。

「……宙太郎さん」

「ん？ 何だ？」

「ありがとうございます」

「どういたしまして。気に入ってくれたのか？」

「はい。かわいい服も、意外といいもんっすね」

「だろ？ もつと買うか？ ペンギンやウサギもあるぞ」

「今度は俺が選ぶっす」

「おつ、ノってきたな」

買い物をした後、映画館で映画を見たり、なぜかおしゃれな喫茶店でコーヒーを飲んだりした。

「今日はどうだった？」

宙太郎さんがチョコレートケーキを食いながら訊いてきた。

「すごく楽しかったです。ありがとうございました」

「真奈は生真面目だな。都留男達もよく言ってるぞ」

「そつつすか？」

「まあ、礼儀正しいのはいいことだ」

「俺、今日外に出て本当に良かったです」

「ほう、それは俺も誘った甲斐があったな」

「外の空気吸うのっていいもんですし、こうやって普段来ない所に  
来るのもなかなか面白いもんっすね」

「そうだろ？ お前仕事以外であんまり人付き合いなさそうだし、  
前から心配してたんだよ」

「……俺、これからは皆を誘ってどっか行ってみようと思います。  
一人もいいですけど、皆で出かけるのもいいって、宙太郎さんが今  
日教えてくれましたから」

「んな大それた目的はなかったんだが、まあ、いい心構えではある  
な」

「それでね、それでね、その遊園地のお化け屋敷すごいんだよ。  
新感覚で、すごく夏にぴったりなんだよ」

翌日、葉亜人がうちにやって来てベラベラ話し始めた。

小学校時代からの幼なじみで、とにかくよく喋る奴なのだ。

今日は昨日行った居化戸市に、新しく遊園地が出来るとかいう話  
をしてる。

「史上最強のジェットコースターがあって、すごく速さやすごく  
怖いそうなんだよ。後ね、夏だからおっきいプールもあるんだ  
よ。冬は凍らせてスケートリンクにするんだよ」

「……今度行くか、その遊園地」

「え？」

「都留男とか誘って、皆で行くか？」

「うんっ！ 行こう行こう！ わっっ、真奈たんから誘うなんて珍  
しいねっ！」

「まあな」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7593n/>

---

真奈たんの夏休み

2010年10月8日13時48分発行